

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (教育学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	MAY THU KYAW
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) A Comparative Study on Research Engagement of Teacher Educators in Myanmar, Singapore and Thailand			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		准教授 牧 貴愛	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		准教授 三輪 千明	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		准教授 杉田 浩崇	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授 佐藤 暢治	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		Assistant Professor Dr Udomluk Koolsriroj (Faculty of Education, Kasetsart University)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、ミャンマー、シンガポール、タイの東南アジア3か国の教員養成に従事する教師教育者 (teacher educators) の研究関与 (research engagement) の特徴とその促進・阻害要因について垂直比較 (vertical comparison)、水平比較 (horizontal comparison) の観点から明らかにしたものである。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、研究の着想、研究対象国の選定、問題の所在、研究の目的、具体的研究課題、研究の意義、用語説明、論文構成について論じている。</p> <p>第2章では、研究対象国3か国の教育制度、教師教育制度について整理している。</p> <p>第3章では、本研究課題にかかる先行研究を、教師教育者の研究関与、研究に対する教師教育者の認識、教師教育者の研究関与の実際 (practice)、教師教育者の研究関与に影響を与える要因、研究対象国毎の関連先行研究の5つの観点毎に検討し、本研究の概念的枠組みを示している。</p> <p>第4章では、研究方法について、哲学的前提、研究設計、比較事例研究 (comparative case study)、研究データの収集方法とその過程、研究データの分析方法とその過程、信頼性と妥当性、研究倫理について論じている。</p> <p>第5章、第6章、第7章では、それぞれミャンマー、シンガポール、タイの事例研究の結果について論じている。まず、同国における教師教育者の採用と職責、同国における教師教育者の研究関与にかかる政策、取り組みが論じられる。次に、各国の調査対象となった教員養成機関について、教師教育者の属性、教員養成機関レベルの教師教育者の研究関与にかかる施策や取り組み、教師教育者の研究関与に対する理解・態度、教師教育者の研究関与の実際、教師教育者の研究関与の動機と課題、垂直比較分析の結果について論じている。</p> <p>第8章では、第5章、第6章、第7章の内容について水平的な比較分析を行い、それを踏まえて教員養成機関のタイプ毎にみられる教師教育者の研究関与、教師教育者の研究関与に影響を与える要因の2点について総括的な分析を行っている。</p> <p>第9章では、本研究の分析結果について総括した上で、本研究の学術的・実践的意義、本研究の限界と今後の研究課題について論じている。</p>			

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. これまで教員養成に従事する教師教育者に関する研究は、主として、欧米、中東を中心として行われており、本研究は、アジア発の先駆的な研究業績であること。また、その中核的内容は、国内外の学術会議での口頭発表ならびに複数篇の査読付英語論文として公表済みであること。
2. 教師教育者が従事する研究、研究関与に影響を与える要因に見られる東南アジア的な特質を明らかにしたこと。具体的には、ミャンマー、シンガポール、タイの教師教育者が従事する研究は、欧米、中東に見られる授業を対象とした実践研究ではなく、学術的な研究が多く見られること。また、教師教育者の研究関与に影響を与える要因として、隠れた時間 (hidden time) や、社会的なつながり (social belongingness) といった調査対象国の特質と呼べる事柄を明らかにしたこと。
3. 本論文は、東南アジアの3か国を対象として、執筆者自らが現地に複数回赴いて行った聞き取り調査、関連資料の収集からなるフィールドワークから得られた知見に基づくものであること。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士 (教育学) の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 6 年 7 月 29 日

備考 要旨は、A4版2枚 (1,500字程度) 以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)